非核・いしかわ

事務局／石川民医連労働組合気付
〒920-0848 金沢市京町 28-8　TEL076-251-0014　Fax 076-251-3930
郵便振替口座 00760-0-15689　会報込年会費 3000 円

2017 年 5 月 20 日　月刊第 226 号　発行／非核の政府を求める石川の会

非核五項目

① 全人類共通の課題として核戦争防止、核兵器廃絶の実現を求める
② 国是とされる非核三原則（つくらず、もたず、もちこませず）を厳守する
③ 日本の核戦場化へのすべての措置を阻止する
④ 国家補償による被爆者援護法を制定する
⑤ 原水爆禁止世界大会のこれまでの合意にもとづいて国際連帯を強化する

1 面　だれの子どももころさない　民主主義は今からここから　西郷南海子
3 面　沖縄は訴える　仲里利信
4 面　改憲の危険性と 9 条の生かし方　山田　朗
　―進む軍拡にどう対処するか―
5 面　「この空を見上げて・石川被爆者の証言」DVD が完成
6 面　非核石川の会第 29 回総会・報告
　―野々市市　粟貴章市長　来場挨拶―
　「共謀罪」法案への抗議文
7 面　日本のうたごえ祭典の準備　中村昭一
　習うより、慣れろ　大滝和康
　何もなかったように　大川陽一
8 面　石川の地域点描 シリーズ　中西　優
　絵手紙コーナー　竹味恭子

◆講演要旨◆

だれの子どもも　ころさない
民主主義は　今から　ここから

安保関連法に反対するママの会発起人　西郷南海子

新しい社会のデザインを
語ろうと話された西郷さん

私は神奈川県の公立小学校で育ちました。歴史が大好きで小学六年のときに学んだ第二次世界大戦で、なぜ焼け野原になるまで戦争を止められなかったのか、広島、長崎、沖縄の惨状を見ていると人間がボロ切れや炭の塊のような「モノ」になって死んでいるのは何故なのか、日本だけでなくドイツではナチスが強制収容所でユダヤ人を大量虐殺したことなど、大変興味を持ちました。

憲法前文との出会い（小学六年）

小学六年のとき、憲法前文を暗唱する授業があり、「政府の行為によって再び戦争の惨禍が起ることのないようにすることを決意し・・・」を読んで、政府がもう戦争を起こさないことを知り大変感動しました。この頃、父から手塚治虫の『アドルフに告ぐ』、母からはベアテ・シロタ・ゴードンさんの『一九四五年のクリスマス』をプレゼントされています。

私は世界の戦争をどうしたらなくせるかに関心があり、京都大学法学部に入学しました。大学二年の秋に長女を出産したとき、子どもは生きているだけで価値がある、生きていることが価値なのだと自分の子どもをみていて実感しました。このことが私の原点です。

乳幼児を育てるなかで

3・11を経験

二〇一一年三月の福島原発事故を通じて、それまで何気なく押してきたスイッチの向こう側が原子力発電所につながっていたことを初めて知りました。同年一二月セシウムが検出さ

花鳥風月

「嫌韓だ」「反日だ」と、メディアで取り上げられることが多くなっている。一部週刊誌の広告を見るとひどいフレーズが躍っていて、本当にこんなことがあるのだろうか思ってしまう▼大学時代の元活動家の仲間に久しぶりに再会した時、中国や韓国の隣人を嫌悪する意見をぶつけられて驚いた。南京虐殺、従軍慰安婦問題など歴史的事実について、どこでこんな見解を持つようになったのかと思いながら反論を試みたが、情報源が全く違うようで話にならなかった▼近隣諸国の民と、なぜこんな憎悪に満ちたやりとりを続けなければいけないのか。過去の侵略戦争や植民地政策による被害者と加害者、そしてその子や孫として現代に生きる我々の立つ位置を明確にしなければならないと感じた▼一個人と国家を背負った（統制下の）「国民」は違うのだという視点が必要で、混同してはいけないと思う。国家の戦争責任を曖昧にしたまま、戦争による被害者意識と加害者責任の問題を論ずることはできない。安倍政権による戦前回帰の政策が、歴史教育とマスコミを捻じ曲げて進められていることを忘れてはならない。盲目の「国民」とならないために。（I）

れたため保育園の粉ミルクが切り替えられるという貼り紙をみて、私はひとりで「さよなら原発　一〇〇〇万署名」の用紙を保育園の駐輪場やマンションでも署名を呼びかけました。この時、ママたちや住民から確かな反応があり、多くの人が心のどこかで思っているけれど、形にするきっかけがないだけなんだ、とわかりました。

二〇一四年七月の安倍内閣による集団的自衛権行使容認の閣議決定は本当にショックでした。二〇一五年五月には安保関連法案の強行採決の日程が浮上するなど〝結論ありき〟の政治とは何だろう。「おかしいと思っている人は必ずいるはず」と自分がきっかけになろうと、安保関連法案に反対するママの会をフェイスブックで起ち上げました。

子どもにもわかる言葉で

私を駆り立てたのは、当時四歳の娘の言葉です。テレビ放映される安倍首相が戦争を準備していると娘に話したら「きょうのよる、せんそうにならない？」と毎晩聞くようになってしまったからです。娘の不安に応えるためにフェイスブックを起ち上げたところ、予想以上にたくさんの「いいね！」が寄せられました。首都圏のママたちが奮起した「ママの渋谷ジャック」には二〇〇〇人の参加者が集まり、たくさんの報道もあり、ママたちのネットワークを広げてくれました。

国会議員に働きかけるとき私たちは一人ひとりのメッセージを集めることを重視しました。ママの会のサイトに二万人分もメッセージが集まりました。ママたちがこんなに一生懸命育てているのにその子どもを奪われたら何の意味もない！。殺すことを前提に政治を動かすとますますおかしくなる。まず殺さないことを前提に政治をやらないといけない。憲法前文に書かれているように、世界中の人が恐い思いや苦しい思いをしなくても生きていける権利（平和的生存権）があるのです。

ママの会の共通コール「せんそうさせない　こどもをまもる」は子どもが保育園でコールしても驚かれないように工夫して作りました。私が好きなコールは二行目の「せんそうさせないおとなもまもる」です。息子がデモごっこで「げんぱついらない　こどもをまもれ」「おとなもまもれ」「おじいさんをまもれ」「おばあさんをまもれ」とコールしていたことがヒントです。ママの会の共通コールは「渋谷ジャック」でも使われ、各地でも方言を交えて広がっています。

民主主義ってなんだ！これだ！

SEALDsのコールで私が好きなのは「民主主義ってなんだ！これだ！」です。民主主義は多数決と思われがちだが、そうではなくて街に出て自分がどんな社会で生きていたいのか、どんな自分でいたいかを自分の言葉で表現しあうことです。このとらえ方が民主主義を新しくしていく、自分と異なる意見に対しても学び合う過程が大事と思います。

市民連合の目的は「立憲主義の回復」「個人の尊厳を守る」ですが、普通の人にはよくわからない。立憲主義や個人の尊厳についても魅力的な言葉で語っていきたいと思っています。

沖縄の七〇代、八〇代の人たちで沖縄戦の前後に子ども時代を過ごし、その後学校に行けなかったために字を書けない人たちがたくさんいるそうです。そういう人たちが夜間中学校に通って学んでいる取り組みが『まちかんてい！動き始めた学びの時計』に書かれています。沖縄の言葉（まちかんてい）は待ちかねたです。このように自分とは違う世界を持っている人たちに出会うと自分の世界の見え方も変わる。政治に対して声を挙げるのはただ「ノー」と言うだけではなく、自分にとって世界が豊かになることなんだと思っています。私は民主主義をそういう毎日のプロセスとしてとらえ直していきたいです。

できないこと探しよりも、できること探し

これから各地で市民連合が鍵になって安倍政権に負けない選挙をやっていきますが、私はできないこと探しよりも、何ができるのかを探していきたいです。例えば、民進党の「二〇三〇年原発ゼロ政策」は中途半端という指摘がありますが、ここで突き放したら民進党は自民党や維新の会に追いやることになります。今は中途半端であっても繋いだ手を離さないことが市民連合に求められていると思います。手を繋げる方法をしぶとく探していくのが私たちの課題です。

私の好きな言葉はSEALDsの諏訪原君の「新しい社会のデザインを語ろう」です。私たちは、「〇〇に反対」ではなく、どういう社会で生きていくのかを語り合うことはすごく楽しいこと。私たちは〝ワクワク感〟で安倍政権に勝っていきたいと思います。これまでの市民と野党の共同により、政

党の枠を超えて国会議員の心の垣根も変わってきています。何年も前だったら「野党共闘」と言ってもなかなか実現できなかったが、今はそれが実現できている。この喜びを大事にしながら「できないことよりも　できることを探すこと」をご一緒につくっていきましょう。

（文責　非核・いしかわ編集部）

◆西郷南海子さんから寄せられた感想

金森先生のあたたかな問いに答えるかたちで自分でも驚くほど（！？）思いを語ることができました。日々のささやかな営みの中に平和を手渡していくきっかけ（本との出会いなど）があるのだな、と改めて実感しました。石川の皆様の表情も前から見ていてとても明るくて生き生きしていました。この中から、またどんな取り組みが生まれるか楽しみにしています。

◎いしかわ市民連合が四月二二日、金沢市近江町交流プラザ四階集会室で開いた「いのちとくらしを守る市民集会」の西郷南海子さんの講演要旨です。

◆講演要旨◆

「沖縄は訴える」

沖縄四区衆議院議員　仲里利信

「オール沖縄」の民意を話された仲里利信さん

〝オール沖縄〟の国会議員に

一九九二年から県議会議員、二〇〇七年県議会議長を務めていたときに教科書検定問題が起きた。沖縄での集団自決について国の検定意見によって教科書から「軍命」によるものとの記載が消えた。全四一自治体が検定意見撤回決議をし、「検定意見撤回県民集会」を開催、一一万人が参加した。そのとき、議長の自分と与野党代表一人ずつの三人で計画を立てた。これが「オール沖縄」の基になったと思う。

その後、県会議員を勇退し、畑をしながら自民党国会議員の後援会長をしていたが、二〇一三年沖縄で「屈辱の日」と位置づけている日に安倍政権は東京で「主権回復の日」と名付けた式典を実施した。沖縄選出の自民党国会議員は皆参加。沖縄の民意に反すると、自分は後援会長を辞めた。

その年の秋の名護市長選のとき、稲嶺さんの「辺野古の陸上にも、海上にも基地を造らせない」という公約に共感、南風原から名護へ約一時間半、応援に通った。自分の車に自分でスピーカーをつけ一人でしゃべる（襲われないかと心配しつつ）。その選挙の総決起集会に沖縄の著名な企業人も何人も参加していて、保革の壁をなくそうと〝オール沖縄〟が出来ていった。自分は稲嶺支持応援で自民党を除名された。国の辺野古移設圧力に公約を破った自民党は許せない。そうして、かつて後援会長をしていた自民党候補と闘う「オール沖縄」候補になった。

沖縄戦と基地と民意

明治政府の弾圧のもとで琉球から「沖縄県」にされ、その後の皇民化教育の中で国に協力する体制が作られていった。沖縄戦では軍民一体の戦いで、県民は「戦争は人が人でなくなる」「軍隊は人を守らない」ということを身にしみて体験した。小学三年で終戦。父は自決、母は自分たちを道連れに自殺すると言う。そのとき自分は母親に「大人は自業自得だよ。でも僕は死にたくない！」と抵抗した。

去年の今日、うるま市で二十歳の女性が元海兵隊員の軍属に殺された。この半年間に米軍による落下、流弾事故・事件は八件もある。米軍は聞く耳を持たないし、外務省も県民の立場に立つのではなく、なだめる米軍の手先となっている。一二月のオスプレイ墜落を不時着と言う。国がどんなにごまかそうと、沖縄の民意は戦争を、軍隊を、基地を許さない。

沖縄の今

米軍が沖縄・日本を守っている、米軍で沖縄が潤っていると言うのは全くウソ。米海兵隊一万九千人のうち在沖は二千人程度。基地を受け入れている分、沢山の予算をもらっているもウソ。かつて仲井真知事が「有史以来の予算をいただき…」と言ったが、それもウソ。基地振興費とは別の一般予算から出ているものを見せかけの振興予算に入れたりしている。予算は太田知事の時代が一番多かった。

嘉手納以南の全基地返還という話もごく一部ずつの返還だったり、辺野古への強化移転を前提にした話で「翁長が協力しないから辺野古基地が出来ない」と攻撃材料にしている。漁協

の許可だけを根拠に県を無視して辺野古基地建設を進めようとしている。漁協への補償は一戸約三千円、反対派対策に一回船を出せば五万円というようにお金も絡めて分断を仕掛けている。

米軍基地問題の陰で宮古・八重山への自衛隊配置、施設建設が急速に進んでいる。自衛隊が予算を獲得するためには、活動場所を作らなくてはならない。国は中国からの介入を口実に、抑止力として沖縄離島に防衛予算をつぎ込んでいる。敵が上陸した島を取り戻すといった想定で海兵隊機能（水陸機動団）が設置された。「自衛隊も戦争に行く」「命令があれば行かなくてはならない」ことがはっきりした重大な時期にある。

自分は今も地元を大切にする自民党だと思っているが、無所属で政党助成金はもらっていない。もらったら「オール沖縄」はつぶれると思う。「小異を捨てて大同につく」野党共闘で子や孫に後ろ指を指されない社会を作っていきたい。

（まとめ　末友雅子）

◎四月二八日、ITビジネスプラザで開かれた沖縄連帯集会における仲里利信さんの講演要旨です。

◆講演要旨◆

改憲の危険性と九条の生かし方

進む軍拡の既成事実にどう対処するか

明治大学教授・史学博士　山田朗

「脅威」をつくらない平和的外交が鍵と説いた山田朗氏

安倍政権による改憲への道

冒頭、安倍政権が取り組んでいる改憲狙いの手法を三段階に分けて紹介。一つ目は、戦争肯定の価値観を植え付ける教育等（ソフト面）。二つ目は、安保法制、秘密保護法など法律・制度の整備（システム面）。そして三つ目が、軍備拡張という「既成事実」積み上げによる臨戦態勢の構築（ハード面）。このように、様々な角度から、着々と改憲への道は進められている。では、この用意周到な流れに対して、私たちはどう立ち向かえばよいのだろうか。

軍事費の推移と「軍拡の連鎖」

まず、山田氏が着目したのは、軍事費の推移である。日本の軍事費を他国とランキング形式で比較すると、冷戦後に順位が上昇、イラク戦争後にやや下降している。一見、情勢が落ち着いて軍縮に移行したかのように思えるのだが、金額を比較すると、ほぼ削減されていない。では何故順位が下がったか、理由は簡単。イラク戦争の余波を受けたアジア・中東地域の緊張状態、軍拡が加速した影響で、相対的に順位が下降したに過ぎない。つまり、日本の軍事費自体は、冷戦時の緊張下から同水準で捻出し続けられていることに注意する必要がある。

それでは、何が軍拡を引き起こすのか？　例えば、日本と中国が緊張状態になったと仮定しよう。まず、当事国の日本と中国は行く末を見据えて軍拡を進めるわけだが、その影響は二国間に留まらない。現在のアジア軍拡は中国、日本、インドの三カ国が中心となってバランスを保っている状況にあり、日本と中国の急速な軍拡は、インドにも大きく緊張を走らせる。そして、インドが軍拡を始めることで、パキスタン・中東の軍拡が促進、イスラエル等の国々に伝染していく。軍拡は単純に二国間で計れるものではない。山田氏は、このメカニズムを「軍拡の連鎖」と称した。

安倍政権の軍事政策の特徴

次は、安倍政権における軍事政策の特徴と変遷について。日本の軍事政策の根底には、「日米防衛協力のための指針」が存在する。これは、一九七八年、日米安保条約に基づいて策定され、「ガイドライン」と呼ばれている。元々、日本への侵略の未然防止や、「日本有事」、「極東有事」への限定的な対応が目的として規定されていたものが、二度の改定を経るうちに、その規定が「世界有事」へと変化した。これは、日本の国内諸法規から明らかに逸脱するものなのだが、その辻褄合わせとして「安保法制」等の条件整備が行われた恰好となっている。つまり、安倍政権の軍事政策の源流には、この「ガイドライン」が深く関係することを考える必要があると語った。

「徴用」の危険性

安倍政権は一体どこを目指しているのか。政策・言動から、政権の狙いを推測すると、以下のようなことが予

想される。①「既成事実（解釈改憲）」を蓄積した明文改憲への流れづくり、②自衛隊の「国防軍・海軍」化、③本格的な爆撃機・ミサイルの導入。さらにもう一点、私たち市民に最も強く影響する恐れがあるのが、「徴用」である。徴兵ばかりが取り上げられがちだが、戦争は軍人だけでは成立しない。「徴用」が義務化されれば、実質的に国民すべてが戦争に駆り出される危険があると警鐘を鳴らした。

憲法九条の生かし方

名古屋高裁・違憲判決の意味

私たちは何を柱として軍事政策に対抗していくべきか。そのヒントは、二〇〇八年、名古屋にある。当時、自衛隊のイラク派遣に対して、差し止めなどを求める集団訴訟が全国一三カ所で展開されたが、そのうち、名古屋高裁での判決が世間を賑わせた。航空自衛隊による多国籍軍のバグダッド空輸について「憲法九条一項に違反する活動を含んでいる」との判断が示されたのだ。これは、憲法前文に基づく「平和的生存権」の具体的権利性を認めるとともに、補給・後方支援活動が「違憲」と判断されたということである。山田氏は、「この判決が持つ意味は大きい、活用しない手はない。」と対抗軸として憲法9条を生かしていく重要性を訴えた。

おわりに＝日本のこれから

市民としてできること

講演終盤、テーマは「市民としてできること」。日本が「軍拡の連鎖」の泥沼から脱却するためには、力ではなく知恵を以て近隣諸国とつきあっていくことが重要となる。つまり、安易に「脅威」を力で抑え込むのではなく、「脅威」を作らない平和的外交が鍵となる。そのために、私たち市民ができることは何か。それは、安保法制や「共謀罪」のような強権的法律を許さず反対の声を上げ続けること。そして、市民の「分断」を防ぐことだ。憲法が保障する自由な思想と言論の中で、市民が一体となり、戦争を容認しない社会にすることが必要だと訴え、講演を閉じた。

（まとめ　大田健志）

◎五月三日、本多の森ホールで開かれた「平和憲法施行七〇周年記念石川県民集会」における山田朗明治大学教授の講演要旨です。

（ご案内）

「二〇一七年度平和事業に関する自治体アンケート集計結果」を作成しました。本紙に同封します。

DVD「この空を見上げて～石川・被爆者たちの証言」が遂に完成

石川県原爆被災者友の会では、三年前から県内被爆者の録画の収録を開始し、これを編集したDVDが六月に完成します。被爆七二周年記念慰霊事業として国・県の助成を受け、業者に依頼して作成したものです。広く平和教育に役立てるため、県内全ての学校や図書館に配布を予定しています。

内容は四部編成で九〇分近いものですが、視聴者の年齢に合わせて選択でき、幼児から大人まで被爆の実相が伝わるものになっています。お披露目は「平和サークルむぎわらぼうし」の六月三日の例会（松ヶ枝公民館）で行います。

【内容】

①子どもたちが見たヒロシマ・ナガサキ（三〇分・被爆者四名の証言）

②兵隊さんの見たヒロシマ（三〇分・遺体処理に従事した兵士の証言）

③西藤少年が見た原爆（一五分・爆心地で見た光景を鮮明に記憶している西藤さんが核兵器の惨状を伝える）

④朗読劇「タミちゃんの八月六日」（一五分・西本さんの実話を基にした物語をアナウンサーが朗読）

原水爆禁止国民平和大行進　歩こう　核兵器のない世界へ

二〇一七年原水爆禁止国民平和大行進が五月六日、東京都江東区「夢の島公園」から出発し、全国一一幹線コースを歩き、八月四日に広島平和公園に集結します。

今年の平和行進は核兵器禁止条約の締結交渉が国連で開かれるという歴史的な時期におこなわれ、すべての自治体を訪問し、「ヒバクシャ国際署名」の推進など核兵器禁止条約の実現をめざす広範な国民共同行動を呼びかけます。

県内の行進日程は、**「能登コース」**が六月一一日輪島市役所から出発し、一六日内灘町まで、**「富山―広島コース」**が六月一七日県境の倶利伽羅で富山県行進団から引き継ぎ、二四日福井県吉崎で福井県行進団に引き継ぐまでの二週間です。

「富山―広島コース」の全国通し行進者は山口逸郎さん（東京在住八五歳）、県内通し行進者は岡野ひでみさんです。

◎平和行進の詳しい実施要項は、原水爆禁止国民平和大行進石川県実行委員会へ。

電話〇七六―二四〇―七一九二

非核の政府を求める石川の会 第二九回総会　報告

五月一三日（土）、非核石川の会第二九回総会を野々市市役所併設の情報交流館カメリアで開催しました。

野々市市・粟貴章市長　ご挨拶

総会は、野々市市長・粟貴章さんをお招きし、ご挨拶いただきました。

平和の橋渡しの役割を果たしたいと粟貴章さん

冒頭、情報交流館カメリアの目的と非核石川の会が総会をカメリアで開催したお礼をいただきました。

先ず、県会議員時代から権力には、モノ申してきた自負がある。平和行政は特別なことでなく、野々市市は当たり前のことをしている。一九八四年・平和都市宣言（野々市町）、一九八七年・日本非核宣言自治体協議会加盟、二〇〇八年・平和首長会議加盟（いずれも県下で一番最初の行動）されていることに触れられました。

その後一九八八年から毎年行われている八月六日の広島市平和記念式典に中学生を派遣していることの意義について、広島の記念式典の感想文から、「子どもたちへの影響があり、大きく成長している」。平和の教育がなされていない現状の中で、子どもたちに「平和をどう継承していくか大切な課題」と語られました。

核廃絶の国際的な行動に対し「核廃絶は厳しいが、今回国連での日本の態度は残念だ、日本は平和への橋渡しの役割があるはず」と強調されました。私たちの運動について、「運動は間違っていません。自信を持って行動して下さい」と力強いエールをいただきました。

最後に「県内の平和の橋渡しの役割を果たしたい」と挨拶を結ばれました。

粟貴章市長の熱いメッセージに対し、井上英夫代表から、「非核の運動に更に励む決意を表明」し、感謝の言葉をお返ししました。

総会議事は県下各自治体の平和行政に対する問題などについて深める発言があり、今一番の政治的課題「共謀罪」法案に政府と関係閣僚に抗議文を送ることの緊急提案があり、実施することになりました。

◎以下の抗議文を送付しました。

内閣総理大臣　安倍晋三　様
法務大臣　金田勝年　様

「共謀罪」成立を画策する与党とその追随勢力のあまりにも酷い暴走に断固抗議します！

五月一二日現在、衆院法務委員会で審議されている「共謀罪」法案は、「戦争をする国」づくりのために憲法九条の空文化を進めている安倍内閣が、憲法の人権条項を蹂躙して、国民への監視と干渉と弾圧の体制を築こうとするものであり、「モノ言えぬ監視社会」をつくるものに他なりません。

法案の「合意・共謀罪」が治安維持法の「協議罪」、法案の「罪となる行為の目的を遂行するための準備行為罪」が治安維持法の「結社の目的遂行のためにする行為」と行為類型が同じです。しかも治安維持法と同じく自首による刑の減免規定を設けています。

さらに法案は、国際組織犯罪防止条約（TOC条約）の国内法整備を理由としながら、同条約の対象外の「テロ対策」を正面に掲げて、東京五輪をその口実にしています。しかしわが国は、既に「テロ対策」といわれる一三の条約を批准し、その国内法も整備されており、立法事実は存在しません。

さらに審議のなかで、「花見と犯行の下見はどう区別するのか」と問われても、「ビールと弁当を持っているのが花見で、地図と双眼鏡を持っているのが下見だ」（金田法相）という荒唐無稽ぶりで、内心の自由を侵す違憲立法となる実態をさらけ出しています。

この悪法を許すならば、公安検察、警備公安警察、公安調査庁、内閣調査室、自衛隊情報保全隊などの市民に対する密行捜査とスパイ活動が大手を振ってまかり通り、監視と密告の社会になる重大な危険があります。これこそ治安維持法時代の再現です。

非核の政府を求める石川の会は、「共謀罪」法案がかつての治安維持法と酷似していることを法文上と弾圧の歴史的事実から指摘するとともに、この稀代の悪法をごり押しする安倍内閣の暴走政治に強く抗議するものです。

私たちは治安維持法犠牲者らが果たした抵抗の正当性と、その歴史的成果を現代史に即して共有し、核廃絶と戦争反対のたたかいと結び、武力を行使する道を止めさせ、明文・解釈にわたるあらゆる改憲策動と「共謀罪」法案を許さず、日本国憲法を社会と政治に生かすために、たたかうことを表明するものです。

二〇一七年五月一五日

非核の政府を求める石川の会

非核 平和のひろば

日本のうたごえ祭典の準備状況

中村昭一

内灘闘争とうたごえ運動は密接な関わりを持っていますが、その全国祭典まであと六か月となりました。祭典の準備を進めていく中で、新たな出会いや交流が始まり、人間的なネットワークが広がっていて、本当に喜ばしい限りです。

しかしながら、肝心の演奏面での取り組みはこれからというのが実情であり、多額の経費負担も頭痛の種です。

皆様におかれましては、チケット販売等へのご協力が何にも増して力強い支えになります。

祭典に向けてこれから全力を傾けてまいりますので、どうか力強いご支援、宜しくお願いします。

非核石川の会リレーエッセー

「習うより、慣れろ」

大滝和康

非核石川の会から「リレーエッセー」の依頼がきました。

さて、何を書こうか悩んだ末に今やっている仕事について書くことにしました。

文章を書くのが得意でない私が、赤旗新聞記者を始めたのは、二〇一五年の八月からでやがて二年になろうとしています。「習うより、慣れろ」で五〇の手習いならぬ、六〇の手習いでした。

短い文で読者にわかりやすく伝えることは中々至難の業ですが、日々取材し、原稿を書き、ダメ出しをされながら書き直す。「文章の書き方」の本を読んでみる。試行錯誤しながら、繰り返しやっていると、少しずつ学習し進歩している気がします。何とか読める原稿を書けるようになったかなと「自画自賛」しています。

赤旗記者の仕事は大変ですが、新たな発見や出会いなど、日々変化があり結構面白いところもあります。その時々の情勢に応じて色々な団体や共産党議員に同行し、白山・野々市の市長や県のJAや加賀市、白山市のJAとの懇談を取材したりインタビューする機会もありました。もっと、取材の幅を広げて色んな分野に挑戦して行きたいと思います。

また、写真も重要です。良い写真を撮るための、カメラ技術の習得も必要です。構図とか、動きを切り取るように心がけていますが、これがまた難しい。五〇枚撮って使えるのが一、二枚。最初はカメラの使い方が解らず暗くて写らない、画像がぶれる、など、失敗もありました。演説会写真など一回限りですから、撮り直しが効かない。奥が深いと言うか、これも日々研究です。解らないことはまわりの先輩に聞く、本を読んで研究し実践してみる。それしかないですね。これも、「習うより、慣れろ」かな？実践あるのみ。日々精進です。

詩人会議かなざわ「独標より

何もなかったように

大川 陽一

津波に流された七歳の少女は
海沿いの町に住んでいた

町の原子力発電所が爆発し
人々は町を追われた
少女の父親は
防護服を着て
年に数回許された一時帰宅の際に
毎日　海岸線を捜し歩いた
雨の日も、風の日も
雪の日も、炎天の真夏にも
来る日も来る日も
娘の名を呼び
「おとうさん」と駆け寄る姿を
待ちわびた

賑わいの消えた町の
兵隊の隊列のような
汚染土を入れた
黒いフレコンバックの群れを
秋風が撫でていく

六年の歳月を経て
瓦礫の底から
乾いた泥だらけのミッキーマウスの
マフラーがみつかった
その中で
少女の骨の欠片（かけら）が震えていた

この春に
隣り町の避難指示が
全面解除となる

石川の地域点描シリーズ⑨

フォトグラファー　中西　優

新緑がすがすがしい季節となりました。毎年この時期は田植えの風景を収めようと県内各地に足を運んでいます。特に好きなのはこの倉ヶ岳の棚田です。

毎回写真を撮りながらかけがえのないこの風景をいつまでも残していきたいと強く感じます。

田植えが間近に迫った棚田

金沢市倉ヶ岳町にて

絵手紙コーナー

金沢医療生協絵手紙班

竹味　恭子

≪非核平和・掲示版≫

月	日	曜	時	内容	場所
5	27	土	10:30	「北東アジアの中国を知る」 田中義敬日中友好協会理事長	金沢市昭和町・平和と労働会館
6	8	木	18:30	もし森本・富樫断層帯で地震が起こったら　講師 平松良浩さん	金沢市青草町・近江町交流プラザ4階
	9	金	12:30	核兵器廃絶署名6・9行動	金沢市武蔵町・Mza前
	10	土	13:30	戦争をさせない石川の会「共謀罪を考える七尾市講演会」 お話　金澤敏子さん、DVD上映「一枚の写真が・・・」	七尾市小島町・本延寺
	11	日	10:00	石川県母親大会　記念講演・菅原　文子さん 「すべての人のための社会をつくるために」	金沢市三社町・石川県女性センター
	11日（日）～16日（金）			原水爆禁止国民大平和行進・能登コース	輪島市～内灘町
	15	木	12:00	沖縄に連帯・街頭宣伝・署名行動	金沢市武蔵町・Mza前
	15	木	12:30	全国一斉　「ヒバクシャ国際署名」 統一行動	金沢市武蔵町・Mza前
	15日（木）～7月7日			国連・核兵器禁止条約締結交渉会議	ニューヨーク市・国連本部
	17日（土）～24日（土）			原水爆禁止国民大平和行進・富山～広島コース	津幡町～加賀市
	17日（土）～23日（金）			映画 「標的の島　風かたか」	金沢市香林坊・シネモンド
	18	日	10:00	九条の会・石川医療者の会憲法講演会「沖縄戦で散った少年飛行兵の日誌」講師　平野治和さん	金沢市青草町・近江町交流プラザ4階
	29	木	19:00	第13回 原発・いのち・みらいシリーズ講演会 「東電原発事故から6年 福島で被災した医師が伝えたいこと」種市靖行　さん	金沢市青草町・近江町交流プラザ4階
7	1	土	13:30	石川県社会保障推進協議会総会記念講演「生きたかったー相模原障害者殺傷事件が問いかけるもの」 藤井克徳さん	金沢市三社・石川県女性センター
	6	木	12:30	核兵器廃絶署名6・9行動	金沢市武蔵町・Mza前
	23	日	10:00	反核・平和おりづる市民のつどい　ピースデー	金沢市卯辰山・平和の子ら像前広場
	30	日	12:30	いしかわピース9フェスティバル 特別ゲスト・浪速の歌う巨人　趙博-パギやん　from大阪	白山市・美川文化会館

＊ 祝日は休日とします　＊ 毎週金曜日18：30どいね原発アピール行動 金沢駅兼六園口　＊ 毎月15日石川県沖縄連帯デー